

令和4年度 東京都立王子総合高等学校 学校経営報告

校長 決 定

1 今年度の取組状況と取組目標に対する自己評価

今年度の経営テーマ タイム・パフォーマンス（時間対効果）を意識した業務の効率化に向け、「情報の共有化」と「組織を意識化」したマネジメントを実施する。

自己評価の基準

【A】：十分達成できた 【B】：概ね達成できた 【C】：あまり達成できなかった

(1) 学校経営・組織マネジメント

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
1 学校組織マネジメントを意識した学校経営 【A】	① 校務分掌を中心とした様々な業務のシンプル化、「見える化」を図り、全教職員が内容を把握できるようにする。 ② マンパワーに頼ることなく、組織（チーム）として課題解決に向けた仕事ができるような計画的な人財育成と人財配置（人事異動）を実施する（学年任せの分掌業務から、組織的な分掌業務へと移管を図る）。 ③ データ・ファクト・ロジックに基づいた学校経営・校務分掌の推進 ④ 効率的な予算編成並びに執行（選択と集中） ⑤ 教職員の勤務時間の負担軽減を考慮した働き方改革の実現	① 「見える化」を図るために、管理職からの資料はA3判1枚に収まる内容のものを提示した。 ② 適切な異動のために、6年間の在籍期間が過ぎた教員については速やかに異動対象とした。そのために、1つの分掌には長期に属さないように校内の分掌配置を行い、B選考管理職を1名輩出できた。 ③ 年度初めに「学校評価計画表」を作成し、企画調整会議並びに学校運営連絡協議会において提示した。 ④ 中・長期的な視野に立った予算編成を行い、校長による査定ヒアリングを実施し、これまで更新できなかった備品類を買い揃え、教職員の負担軽減につながるようにモニター並びにワイヤレスキーボードを補正予算にて購入できた。 ⑤ 80時間を超えた職員については、産業医との面談を実施した。
2 新型コロナウイルス感染拡大防止等に対応した安心・安全な学習環境づくり 【A】	① 新型コロナウイルス感染拡大防止等に対応した弾力的な教育課程の編成 ② パラダイムシフト（枠組みの転換）における授業のあり方の検討・オンライン学習等、ICTを活用した学習環境の確保 ③ 生徒の健康面を意識した学校行事の再編成（延期もしくは中止） ④ デジタルデバインドを意識した情報発	① 都内並びに校内の感染状況を見ながら、学校行事の見直し等を行った。 ② 校内の感染状況の悪化により11月末に3日間、2年次においてオンラインの授業を実践できた。 ③ 感染状況を見ながら部活動の中止等の判断や体育祭、桜橙祭は形を変えての実施をした。

	信（あらゆるメディアを活用した情報発信）	④ 生徒・保護者への連絡は、ホームページや Teams を活用した。
3 カリキュラム・マネジメントを意識した教育課程の編成 【A】	① R P D C A を意識した教育課程の編成 ② 総合学科としての特色ある教科横断型の教育課程の編成 ③ グランドデザインに基づく、全教科・全単元のルーブリックの作成と教科毎に評価規準を統一した観点別評価の実施	① 「学校評価計画表」により、1年間の教育課程を編成した。 ② 3年次の「課題研究」を全校体制で実施した。 ③ 各教科の代表者からなる学習評価PTを立ち上げ、観点別評価について学校としての方針を確立できた。
4 Tokyo スマート・スクール・プロジェクトの実現 【B】	① Wi-Fi 環境の整備により、ICTを最大限に活用し、費用対効果、時間対効果を考えた教育活動を行うために、Microsoft Office365 を活用した、学校評価やアンケート集計等の実施や部活動指導員のアウトソースを活用する。 ② 職員会議等の会議におけるペーパーレス化と完全な電子起案化の推進 ③ 働き方改革により夏休完全消化、有給休暇15日以上を取得する。	① 様々な場面で Teams を活用し、学校評価だけでなく、アンケート集計においては Forms を利用する等、ICTを積極的に活用した。また、リクルート社のスタディサプリを導入し、補習等のアウトソースとして動画視聴を促した。 ② 職員会議の完全ペーパーレス化や電子起案率100%達成できた。 ③ 夏季休暇については、ほぼ全教職員の大半が5日を消化し、有給休暇15日以上の取得もほぼ達成できた。
5 特色化を意識した教育課程の編成 【A】	① 特色ある学校設定科目の再編成 ② 1年次「産業社会と人間」、2年次「人間と社会」、3年次「課題研究」と一貫し総合学科としてのキャリア教育のストーリー化を創り上げる事業構築（「見える化」） ③ 総合的な探究の時間（人間と社会）における体験活動の再構築（清掃活動等の奉仕的内容の取りやめ） ④ S T E A M 教育の検討並びに S D G s を意識した教育活動の実施 ⑤ 全校体制による探究活動（キャリア教育）の充実 ⑥ 生徒が地球規模で自己の将来を展望できるよう、2,3年次において、英語以外の外国語（フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語等）を選択できるよう王総グローバルランゲージを実践する。	① 新学習指導要領に基づいた新教育課程を編成できた。 ② 3学期よりNPO法人と連携し、3年間のキャリア教育について事業構築を始めることができた。 ③ 「人間と社会」は、奉仕的な体験活動をやめ、防災体験等実施した。 ④ 「人間と社会」において、経産省の「未来の教室」実証授業の一環として、TBSとシャープと連携した授業を展開した。 ⑤ O C A として全校体制による「課題研究」を実施した。 ⑥ グローバルランゲージとして、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、韓国語を設定し、中国語と韓国語については発展クラスも設定した。

<p>6 人財育成</p> <p>【A】</p>	<p>① 新規採用教員並びに若手教員を組織的に学校全体で育成を図る。</p> <p>② 主任教諭選考並びに管理職選考受験候補者を意識的に育成する。</p> <p>③ 授業力向上に向け、授業研究を実施する。</p>	<p>① 「人財育成シート」を作成し、分掌並びに教科の指導を実施した。</p> <p>② 主任教諭選考においては、6名受験し、3名が合格、4級職選考については2名合格した。</p> <p>③ 全教員が3回以上の相互授業参観を実施した。</p>
--------------------------	--	---

(2) 学習活動

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>7 「東京型教育モデルの実現」</p> <p>【A】</p>	<p>① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験から脱却した主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の実践</p> <p>② Teams や Forms 等の Office365 を活用した授業実践、及び模試のデータを活用した個に応じた学習指導の実施</p>	<p>① ICTを活用した授業展開やアクティブ・ラーニングまではいかないが、各担当者の工夫による話し合い活動を中心とした授業展開は実施できた。</p> <p>② Office365 は、すべての学年、教員において活用できた。「産業社会と人間」等の授業において、タブレットの活用が進んだ。</p>
<p>8 新学習指導要領に対応した授業展開</p> <p>【B】</p>	<p>① 同一科目担当者毎の評価規準を改め、全定期考査の共通問題化により観点別評価を含めた学習評価の評価規準を統一</p> <p>② 新たな科目に対応した教材研究の実施</p> <p>③ 大学進学者希望者に対する大学入学共通テストに対応した学校設定教科・科目の設定</p>	<p>① 定期考査の共通問題化について、一部の教科を除き実施し、観点別評価についても評価規準の統一を図ることができた。</p> <p>② 新学習指導要領に基づいた新たな、歴史総合については、担当者間による教材研究が進んだ。</p> <p>③ 演習科目を中心とした共通テスト対策の科目を設定した。</p>
<p>9 AI時代に対応した学力の育成</p> <p>【A】</p>	<p>① リーディングスキルテストの実施とすべての教科において、読解力を育成するための授業内容の再構築</p> <p>② GIGAスクール構想スクールを意識したBYODを中心としたタブレット端末等の活用や Teams 等を活用した授業展開の実施</p>	<p>① 7月に1年次生の各自のタブレットを利用したリーディングスキルテストを実施し、分析会を10月に実施できた。</p> <p>② 1年次生は、購入させたタブレットを活用し、Teams での課題配信や Forms でのアンケート回収等を実施した。</p>

(3) 進路指導

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>10 1年次からの系統的、組織的な進路指導</p> <p>【A】</p>	<p>① ガイダンス等の丁寧な実施により、生徒の希望する進路実現を図る。</p> <p>② 科目選択や模試等を活用し、大学進学希望者への指導の充実を図る。</p>	<p>① 現役合格者による卒業生講話や進路ガイダンスを通じて、目標達成に向けたモチベーションの涵養をすることができた。</p>

	<p>③ 資格取得を促進し、個に応じた特定分野についての意欲や能力を高める。</p> <p>④ 学年任せではなく、進路相談部が中心となって組織として一貫した進路指導を行う。</p> <p>⑤ キャリアカウンセラーを中心に進路相談部や学年担任等が緊密に連携して進路相談機能の一層の充実を図る。</p>	<p>② スタディサプリの無料契約期間を活用し、大学進学希望者へのサポートを実施した。</p> <p>③ 総合選択科目において、資格取得を奨励し、工業系、商業系の科目において積極的な資格を取得できた。</p> <p>④ 進路相談部が中心となり、年次をサポートする体制を築けた。</p> <p>⑤ 進路相談部主任とキャリアカウンセラーが連携し、OCAによる一人一人の進路相談サポートを実施できた。</p>
<p>1.1 キャリア教育の重視</p> <p>【B】</p>	<p>① NPO団体や学校外の機関の支援等、外部人材を活用し、総合学科高校としてのキャリア教育の充実を図る。</p> <p>② 総合学科としてのミッションだけではなく、社会との接続(トランジション)を意識した「見えない学力」や「見えにくい学力」(コンピテンシー)の育成を図る。</p>	<p>① ロールモデルとして卒業生の合格体験講演会や社会人講話により、将来へのモチベーションを涵養できた。</p> <p>② 知識・理解だけの注入だけでなく、学校行事や部活動を通じて、「学力の氷山モデル」にみられるような、コミュニケーション能力や、コンピテンシーの育成を図った。</p>

(4) 生活指導

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>1.2 SNSの適切な利用促進に関する指導の徹底</p> <p>【B】</p>	<p>① 望ましい生活習慣を確立する指導の一環として、生徒が意図せずトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえて「SNSルール」の徹底を図る。</p>	<p>① セーフティ教室や様々な場面を通じて、SNSの正しい使い方や「SNSルール」の徹底を図った。</p>
<p>1.3 体罰根絶といじめの事前防止・早期発見・早期対応の徹底</p> <p>【A】</p>	<p>① いじめ・体罰に関するアンケートを年3回実施するとともに、特に部活動において顧問教諭と外部指導員とが連携して体罰を根絶する体制を構築する。</p> <p>② アンケートの結果により、いじめが発覚した場合には、いじめ防止対策委員会を速やかに開催し、初動対応によって重大事案にならないようにスクールカウンセラーを含めた全教職員で組織的な対応を実施する。</p>	<p>① いじめ・体罰に関するアンケートを年3回実施し、記述内容によっては生徒からの聴き取りを実施。課題として残るものは見受けられなかった。</p> <p>② スクールカウンセラーとの綿密な打ち合わせ等により、生徒情報を共有し、定期的な教育相談委員会を開催し、重大事案にならないような組織を確立できた。</p>

(5) 特別活動・部活動

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>1 4 ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事を通した生徒の主体性の育成</p> <p>【A】</p>	<p>① 担当教員が一方向的に指示を出すのではなく、特別活動や部活動を通じて生徒が自ら課題を見つけ、自ら収集した情報をもとに自ら解決策を考え、自らの意志決定により、問題をよりよく解決していけるよう支援する。</p> <p>② 学校行事において、見通しをもって計画的に準備させることにより、質の確保と行事終了後は速やかに学習中心の生活に復帰できるよう指導し、授業や学業との両立を図る。</p> <p>③ 特別活動終了後は、必ずリフレクション（振り返り）を行うとともに、Forms等の活用によりアンケートを実施し速やかに次年度に向けた反省点を見出していく。</p>	<p>① ② 指示・指導ではなく見守ることを中心に、学校行事等の企画や運営等支援を行うことで、コロナ禍における体育祭や桜橙祭、合唱祭に代わる生徒会企画等を実施した。</p> <p>③ Teams や Forms 等を活用したリフレクションを必ず行い、次年度に向けた課題を見出すことができた。</p>
<p>1 5 部活動を通した健全育成</p> <p>【A】</p>	<p>① 「部活動に関する活動方針」や文化部・運動部活動ガイドラインに基づき、全部活動が週二日以上完全休養日を設定するとともに、短時間で最大限の効果を上げる合理的な活動内容や活動方法等を工夫することで、自宅学習の時間を確保する。</p> <p>② 勝利至上主義に陥ることなく、生徒の自主性を尊重した部活動の在り方を意識した指導を実施する。</p> <p>③ 部活動ごとに口座を開設し、部費を一元管理するとともに、通帳や会計報告等を定期的に管理職が確認することで、適正な部費の執行・管理を行う。</p> <p>④ 教職員の加重負担とならぬように、部活動支援員の活用と部活動の今後のあり方を働き方改革の面から検討する。</p>	<p>① 感染予防対策を徹底し、部活動については制限をし、クラスターを発生することなく、活動することができた。</p> <p>② 部活動の在り方については、生活指導部を中心にその在り方を検討した。</p> <p>③ 部費や部活動に係る予算執行については、生徒任せにすることなく、顧問が適切に関わりながら管理し、通帳及び印鑑は管理職の適切な管理下により執行できた。</p> <p>④ 働き方改革を進めるため、部活動支援員の活動時間を増加し、教職員の負担を軽減することができた。</p>
<p>1 6 Tokyo Active Plan for studentsを踏まえた体力向上</p> <p>【A】</p>	<p>① 体育の授業や体育的行事、部活動の充実により体力テストの結果を向上させる。</p> <p>② オリンピック・パラリンピックを契機とした生涯スポーツに親しむ姿勢を育成する。</p>	<p>① 体力向上に向けた取組みを実施した。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、体育の授業も種目等に制約を受けたが、体力向上だけでなく、スポーツに親しむ姿勢を育成した。</p>

(6) 安心・安全な環境作り

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>1 7 心身の健康と安全に対する意識を高めた健全育成</p> <p>【A】</p>	<p>① 地域と連携した総合防災訓練を行うことで、自助・共助の精神を培う。</p> <p>② 自転車使用に関する安全教育指導を行い、自転車通学者の保険の全員加入やヘルメット着用の指導を実施する。</p> <p>③ 発達障害等、特別な支援が必要な生徒に対して、合理的配慮に基づく適切な対応を実施するとともに、障害者への理解推進を図る。</p> <p>④ スクールカウンセラーや養護教諭と連携を図り、定期的な教育相談委員会を実施することで、生徒のメンタル面でのサポートを行う。</p>	<p>① 北区や地元町内会、消防署等との連携により、生徒会を中心とした総合防災訓練を初めて実現できた。</p> <p>② 自転車使用に関しては、生活指導部が中心となり、指導を行った。</p> <p>③④ スクールカウンセラーと定期的な情報交換を行い、課題のある生徒の対応については、いじめ対策委員会や企画調整会議等を通じて全教職員で共有化を図った。</p>
<p>1 8 危機管理の徹底</p> <p>【A】</p>	<p>① 新型コロナウイルスの感染拡大防止に最大限配慮し、校内においては3密（密閉、密集、密接）の場面を避けた教育活動を実施する。</p> <p>② アレルギーや疾病のある生徒に関する情報を校内で共有し、危機管理に努める。</p> <p>③ 生徒のメンタル面における小さなサインを見逃さず、迅速かつ組織的な対応を行うとともに、SOSの出し方に関する教育を推進する。</p> <p>④ 学校事故の未然防止（リスク・マネジメント）と事故初動対応の重要性を理解し、授業や部活動等の体育活動中の事故を未然に防止するとともに、万が一事故が発生した際には、速やかな報告・連絡・相談体制により、被害を最小限にとどめる。</p> <p>⑤ 児童相談所や警察等と連携し、家庭内での虐待が予想される生徒の安全を確保する。</p>	<p>① 授業等においては常に3密を避けるような取組の実施、昼食時は、黙食の徹底を図るよう指導した。</p> <p>② 年度当初にアレルギー疾患のある生徒情報を共有し、全教職員に対してエピペン研修を実施した。</p> <p>③ 生徒情報については、養護教諭やスクールカウンセラーと連携し、保護者とともに情報の共有を図った。</p> <p>④ 職員会議やサービス事故防止研修等を通じて、リスク管理や発生した際のリカバリーについての情報の共有化だけでなく、組織としての対応の仕方、報告・連絡・相談体制については徹底できた。</p> <p>⑤ 滝野川警察署を中心とした関係機関等との連携により、速やかに生徒の安全確保について対応できた。</p>
<p>1 9 新型コロナウイルス感染拡大防止対応</p> <p>【A】</p>	<p>① 自宅における毎日の検温の徹底と Teams での情報収集、昇降口でのサーモグラフィカメラによる検温の実施</p> <p>② 不織布マスクの着用の徹底と昼休みの喫食時における「黙食」や手指消毒の徹底</p> <p>③ 感染拡大防止に向けた部活動や学校</p>	<p>① 毎日の健康観察の徹底と Teams を活用した情報収集、サーモグラフィカメラによる検温を毎日実施した。</p> <p>② ③臨機応変な対応や不織布マスクの着用の徹底、教員の巡回による「黙食」の徹底により、校内が感染源になることなく、教職員、</p>

	行事、広報活動等への臨機応変な対応	生徒の感染者数は比較的少ない状況を保てた。
20 保護者との良好な「顔の見える」関係づくり 【A】	<ul style="list-style-type: none"> ① 保護者が安心して学校教育への参画ができるよう、保護者会を中心とした情報の共有化を図る。 ② ホームページを活用した保護者向け情報の発信（パスワードをかけた保護者向け文書の掲載） ③ 保護者と学校が、生徒の希望進路実現のために3学年における三者面談の全員実施 ④ 学校評価による保護者の意向の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ① 各年次年間3回、感染状況により、対面とオンラインのハイブリットによる保護者会を実施した。また、体育祭、桜橙祭等、保護者が生徒の様子を見る機会がなかったので、感染対策を取りながら、保護者向けの授業公開を2学期に実施した。 ② Classiを活用し、保護者向けの情報を提供した。 ③ 3年次の三者面談を夏季休業期間中に全員実施した。 ④ 学校評価アンケートの自由意見により保護者の意向を把握した。

(7) 募集・広報活動

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
21 組織的な募集活動の充実 【A】	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校ホームページだけでなく、TwitterやInstagramといったSNSを通じて本校の特色やイメージを提示する等、中学生目線にたった募集活動を実施する。 ② 戦略的かつ効果的な募集活動を展開し、学校説明会、学校案内会だけでなく、学習塾の出張説明会等積極的に広報活動を実施する。 ③ 私立高校を意識した学校案内の刷新、「まなびゅー」やYouTube等の動画の活用等、イメージ戦略を整える。 ④ 学校説明会や学校案内会の広報活動は、総務・国際部だけが行うのではなく、全校体制で、学校行事として経営企画室職員を含めた全教職員が必ず関わりをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ホームページ以外に、TwitterやInstagramを活用し、生徒の活動状況を逐次掲載した。 ② 中学校からの出張授業や区校長会主催の説明会には積極的に参加し、本校のPRを行った。 ③ YouTube動画は作成できなかったが、学校案内を刷新し、生徒会や広報委員会の協力により、学校説明会・案内会等の実施することで、中学生・保護者のイメージアップに貢献した。 ④ 学校行事として、経営企画室を含めた全校体制で実施できた。
22 ホームページを中心とした広報活動 【A】	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校情報を適宜ホームページ掲載等、広報活動を充実させる。 ② カウンター機能を重視し、アクセス件数を把握することで、中学生や保護者の動向を探る。 ③ 在校生やその保護者向けに、適切な内容を随時掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ホームページのリニューアルにより、頻繁に内容を更新するようになった。 ② カウンター機能を利用し、アクセス件数や各デバイスによる件数を把握した。 ③ 本校の様子を極力掲載できるようにし、年間更新回数は、500回

		以上、一日平均のアクセス件数は、約1,000件を超えた。
--	--	------------------------------

(8) 経営企画室体制

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
23 学校経営への参画 【A】	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校経営計画に基づき、学校経営に参画し、工夫を凝らした経営企画室運営を行う。 ② 教員と企画室職員が協働し、積極的な経営参画を図る。 ③ 働き方改革の一環として「費用対効果」と「時間対効果」を意識し、ICTを最大限活用した業務遂行をする。 ④ 学校の総合窓口として思いやりの心と品格を重んじ、全校の機能をスムーズに調整する。 ⑤ 業務全般を理解するとともに、担当部署のスキルアップを図ると同時に課題意識を常にもち、組織的に業務改善を図っていく。 ⑥ 学校行事や保護者会活動等への積極的な参画。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ② 経営企画室全員体制による学校経営への参画により、適切な予算執行ができた。 ③ ICTを最大限活用し、電子起案率100%を達成することができた。 ④ ワンストップサービスとして、経営企画室の窓口業務、電話対応について適切に実行できた。 ⑤ 業務改善を意識し、全メンバーによる新規採用職員の育成も適切に実行できた。 ⑥ 学校行事等にも、経営参画の一環として、参加出来た。
24 適切な予算執行 【A】	<ul style="list-style-type: none"> ① 計画的な事務執行により、予算の有効活用と一般需用費におけるセンター執行率の向上を図る。 ② 生徒関係の予算だけでなく、教職員の福利厚生面を意識した予算編成を行う。 ③ 教員との連携により、中長期的見通しに立った施設・設備・備品等の更新を図る。 ④ 図書館運営や施設管理において委託業者と連携し、適切な運営を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 新型コロナウイルス感染防止対策関係予算をはじめ、予定通り進めることができた。 ② 中・長期的な視点に立った予算編成指針を策定し、補正予算でPC用大型モニターやワイヤレスキーボード等購入できた。 ③ 教育活動に必要な消耗品等を購入した。 ④ 委託業者との連携により、適切な運営を行えた。
25 関係団体との連携 【A】	<ul style="list-style-type: none"> ① 保護者会との積極的な連携を図り、校務運営を支える。 ② 所轄の警察署や消防署、地域住民や関係機関等と連携した校務運営を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①② 学校運営連絡協議会や地域連絡協議会を通じて、本校の理解促進や円滑な校務運営を実施できた。

2 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標	達成数値
生徒・保護者満足度	学校評価アンケートとして、 生徒の学校満足度（肯定的評価） <u>85%以上</u> 保護者の学校満足度（肯定的評価） <u>85%以上</u>	63.6% 67.5%
キャリア教育の充実	① 進路決定率 <u>95%以上</u> ② 4年生大学進学者数 <u>50名</u> ③ 大学入学共通テスト出願者 <u>60名</u> ④ 各種資格・検定試験合格者数 <u>200名</u>	93.8% 111名 31名 344名
募集対策の充実	① 学校説明会（10～12月）の参加者 <u>2,000名</u> ② 応募倍率（推薦選抜） <u>2.20倍</u> （学力選抜） <u>1.50倍</u> ③ ホームページの1日当たりのアクセス数 <u>1,000回</u> ④ Twitter、インスタグラム、ホームページの更新回数 <u>合計300回</u>	2,506名 2.57倍 1.61倍 1,046回 ホームページ 500回
Tokyo スマートスクールプロジェクト並びに「東京型教育モデル」の実現	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験からの脱却した主体的・対話的で深い学びの授業実践 全教職員による実施 <u>100%</u> ② 校内 Wi-Fi を活用した ICT による全教職員による授業実践 <u>100%</u> ③ 全教職員による Office365 Teams の活用実践 <u>100%</u> ④ 電子起案率 <u>100%</u> ⑤ 教職員の夏休消化率 <u>100%</u> ⑥ 教職員の年次有給休暇15日以上取得率 <u>100%</u>	100% 100% 100% 100% 96% 90%

3 次年度に向けた課題と対策

学校満足度については、7割に達することができなかった。特に2年次においては他年次よりも10ポイント低かった。修学旅行の延期や体育祭・桜橙祭等、コロナ対応で満足感が得られなかったと考えられる。次年度は、コロナ前に学校行事等、フルスペックに戻ることから、教育課程の適正な実施に向け校内体制を整備していく必要がある。また、開校して13年目を迎え、組織マネジメントとして、分掌組織の見直し、総合学科としての系列の見直し、普通科とは一線を画すキャリア教育の先進的なプログラム開発、地域と連携した体験活動の充実を図っていく。

今年度は、GIGA スクール構想の一環として、1年次生はタブレット端末を購入し、授業での活用、Office365のTeamsの活用等、ICTについて大きく変化した。今後、学習指導要領の年次進行と併せ、タブレット端末を持つ生徒が増えてくることから、教員の授業ICTリテラシーの向上と授業デザインのスキルアップ等、授業力の向上に向け研鑽していく必要がある。

今回の入学者選抜にあっては、昨年度、学力選抜の願書提出倍率が1.01倍とほぼ全入に近い数値であったが、総務・国際部の取組により生徒の活動をマメにインスタグラム等にアップしていたことから、1.71倍と大幅に上昇した。広報活動の充実は引き続き行っていく。

人財育成の観点から、主幹教諭を経営参画させるために、主幹会議等、定期的に開催していく。さらに、生徒・保護者そして教職員の満足度を上げるために、組織マネジメントを強化していく。